

第 16 回鉦山跡措置技術委員会 議事録（案）

1. 日時 平成 27 年 3 月 26 日（木）13:00-17:10

2. 場所 （独）日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター 池河会館

3. 議題

- (1) 人形峠センターに係る概況
- (2) 鉦山跡措置の状況
- (3) 鉦山跡措置技術委員会規則の改定（第 2 条の所掌事項の変更）

4. 出席委員

中野委員長、占部委員長代理、飯田委員、緒方委員、小佐古委員、小松委員、佐々木委員、鍋倉委員、西垣委員（欠席委員なし）

5. 審議概要

上記議題等に沿って人形峠環境技術センター（以下センター）従業員が説明を行い、委員から質問、提言を受けた。

(1) 鉦委 16-01（第 15 回鉦山跡措置技術委員会議事録）

前回委員会議事録は異議なく承認された。

(2) 鉦委 16-02（人形峠に係る概況）

センターの組織体制、事業の概況について説明した。ウラン管理方法を検討するにはウランのライフサイクルについて研究する必要がある、そのフィールドとしてウランが自然環境に存在する人形峠が最適であることを説明した。

委員からはウランライフサイクルの実証試験研究の進め方について提言があった。

(3) 鉦委 16-03（鉦山施設の跡措置の進め方）

これまでの鉦山施設の跡措置の取組みを踏まえ、今後の跡措置の進めかたにおいて、坑・廃水の処理などの課題について説明した。

廃泥たい積場の跡措置を進めるうえで、坑・廃水と人形峠周辺に分布する地下水等の水質を比較できるようにしておくよう提言があった。

(4) 鉦委 16-04（鉦山跡措置に係る海外情報）

IAEA ENVIRONET 及び海外事例調査（ハンガリー、ポーランドの鉦さいたい積場の措置状況）から得た情報について報告した。

引き続きセンターの跡措置に反映できる情報収集、機構での研究開発等により知識集積を行い

ながら、センターでの跡措置業務を進めていくよう提言があった。

(5) 鉱委 16-05（覆土表層浸食・植物根侵入対策に係る調査）

覆土表層浸食、植物根侵入対策に係る調査の目的、経緯、調査内容と結果について報告した。

植物根侵入対策については周辺の樹木による成長実験を行うなどの調査とともに景観にも配慮した方がよいとの提言があった。

(6) 鉱委 16-06（廃砂たい積場の覆土効果確認試験及び雨水浸透流解析）

鉱山跡措置の一環として廃砂たい積場に設置した覆土を対象として実施している覆土効果確認試験、覆土内の雨水浸透流解析について報告した。

解析の精度をあげるため、各種の計算条件について熟慮して検討を進めるよう、また降雨時に地表面から排水路へ流れる水量及び排水層から排水路へ流れ出る水量の実測値と比較できるように今後の解析を進めるよう提言があった。

(7) 鉱委 16-07（露天採掘場跡地の地下水の流動解析及び鉄化合物反応系に係る調査）

露天採掘場跡地の現状、平成 26 年度に行った地下水流動解析（同定解析と予測解析）の結果及び今後計画している鉄化合物反応系の調査について報告した。

解析業務は、学問してやるべきこと事業としてやるべきことを上手く峻別して、両方が棄損しないように進めて欲しいという要望があった。また、当調査を進めるうえで必要な事項を今後も整理しながら作業を進めるよう提言があった。

(8) 鉱委 16-08（廃泥たい積場措置に伴い発生する坑廃水の水質・水量及び坑廃水処理に係る課題）

各坑水等の水量と水質、鉱さいたい積場からの坑水処理の現状、廃泥たい積場の措置に伴い生じる廃水に関する課題、廃水処理設備への負荷軽減方策など今後の計画について説明した。

作業の合理化等のため、いくつかの既存技術を組合せることで負荷の軽減の可能性があるのではないか、大雨による水量の増加への対策には既存設備への貯水機能付加の検討を行ってはいかがか、との提言があった。

(9) 全体質疑

覆土によるラドンバリアの機能について調査状況の質問があった。センターでは平成 26 年度は試験計画の立案を行い、平成 27 年 4～5 月から測定を開始、測定結果を鉱山跡措置技術委員会等に提示できるようにする予定であると回答した。

(10) 委員長総括

今回の委員会で得た助言等をもとに鉱山跡措置に向け鋭意努力を続けていただきたい。

以 上